

## はにい『魅力ある学校をめざして4』 令和4年2月22日

「教員同士が目標を共有することで、新たな不登校を生まないための取組に、より具体的に向き合えるようになった。」

ある小学校の校長室、「魅力ある学校づくり」をめざし、中学校区（小学校2校、中学校1校）の校長と担当教諭を中心に、今後の取組や翌月の研修会について、検討会議を行っている。

「中学校の先生に見て欲しい児童の姿について、共有することができたことが大きい。」〈小学校校長〉  
「小学校と中学校の感覚のズレに気づき、お互いに協議できたことは貴重ですね。」〈中学校校長〉  
「教科を超えて主体的な学びとは何か、一緒に考える時間の設定が必要ですね。」〈小学校校長〉  
「取組の成果や課題を中学校へつないでいくことで、子どもたちの実態に応じた引継ぎができますね。」〈小学校校長〉  
「子どもたちを対象とした4項目のアンケート（学校が楽しい、みんなで何かすることが楽しい、授業に主体的に取り組んでいる、授業がよく分かる）の結果をもとに、学年の傾向を把握し、子どもたちの実態に応じた目標を考える。PDCAサイクルを意識した取組は改めて重要だと感じました。」〈担当教諭〉



翌月、小学校の体育館に3校の先生方が集まり研修会が行われた。講師を招き、不登校の未然防止の趣旨と取組のポイントを共有する。3校の教員からなる小グループでの話し合いが始まった。



「1年生は学校を楽しいと思ってもらうこと、安心して居場所づくりが目標でした。様々なアイスブレイクを取り入れ実践したところ、『みんなで何かするのが楽しい』という声も増えました。」

「2年生は分かる授業、学びの基本を定着させることを目標としました。効果的な話し合いを工夫してきた結果、『授業がよくわかる』の項目だけではなく、『主体的に取り組んでいる』という児童が増えたのだと思います。」

「中学校では、アンケートの中で子どもの意見を具体的に聞いてみました。」  
「『学校生活で楽しいと感じることは何ですか。』という質問に対する中学2年生の回答です。子どもたちの声を見て何か気になるところはありますか。」  
「想像以上に『話すことが楽しい』と書いている生徒が多いですね。場所や人は様々だけれど、対話を求めていることが分かります。」  
「子どもたちの声から、実際に子どもたちが対話を求めていることが分かったので、授業の中でもっと効果的な対話の場を設けようと思いました。」

子どもたちの声に寄り添い、「魅力ある学校」をつくるため、校種を超えて対話は続く。

「魅力ある学校づくり調査研究事業」は、新規の不登校を生まないために、子どもたちに4つの項目を聞くアンケートを実施し、子どもの声に耳を傾け、教員が自分たちの取組を振り返り、子どもたちの居場所づくりや、仲間や教員との絆づくりをとおして、子どもにとって「魅力ある学校」をめざしていく国立教育政策研究所が委託する事業です。

## 意識調査のどこに注目し取組を考える？

○先生方のとらえと、子どもたちのとらえのずれがないか見るものです。そのため、先生方は毎回の意識調査の前に、4つの質問に対する子どもの回答がそれぞれ何%になるかを予想しておきます。

質問	回答	どちらかといえば		あてはまらない	
		あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
ア	学校が楽しい				
イ	みんなで何かするのが楽しい				
ウ	授業に主体的に取り組んでいる				
エ	授業がよくわかる				

○「どちらかといえばあてはまる」に回答した子どもたちが次回調査時に「あてはまる」の回答になるために、どのように取組を計画・修正するかを学年全職員で検討します。

(参考) 横須賀市作成リーフレット「魅力ある学校ってどんな学校？」(令和2年3月)より



(小学校の掲示物)

日々の子どもたちの行為を価値付けます。(右)



(中学校の掲示物)

教員も一緒になって大縄跳びに参加しています。

『はにいい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。  
ご意見・ご感想は → [inochi4027@pref.kanagawa.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.jp)